

公益財団法人大阪国際平和センター次期中期経営計画（案）（令和2年度～令和6年度）概要

法人の目的と方向性

- 大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念
- 空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料の収集・保存・展示
- 戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み世界の平和に貢献



【展示リニューアル(平成27年4月)の方向性】
「大阪中心」「子ども目線」「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」



主に「平和学習施設」として運営

法人の事業・性格

- 主な事業
展示事業、企画事業、出かける展示、資料収集・提供、「刻(とき)の庭」管理等
- 法人の性格
府・市と共に平和施策を実施することを目的に設立。府・市の公共の施設の側面を持つ。
- 運営体制及び財務状況
運営費の9割超を府・市の補助金に依拠。契約職員5名という限られた人員のもと、企画事業・特別展は自主財源のみで実施。限られたマンパワーと財源で、効果的な運営が求められている。

中期経営計画の目的等

- 現計画(平成27年度～令和元年度)
「リニューアルしたピースおおさかの認知度を高めるとともに常設展示を核とした事業活動の基盤を確立する」
「入館者総合満足度」「入館者数」「貸出資料利用人数」「出かける展示」「平和寄附金収入」「入館者1人あたりの事業費」を成果指標に掲げ、「入館者総合満足度」「出かける展示」「平和寄附金収入」についてはほぼすべての年度で目標を達成(見込)。「入館者数」「入館者1人あたりの事業費」については、目標を未達成(見込)となった。
- 次期計画(令和2年度～令和6年度)
「戦争の記憶を風化させることなく、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを継承する」という方針のもと、法人の事業活動の確実な実施に向け、5か年の中期経営計画を策定する。

6つの基本方針及び目標

① 平和学習の推進

- 対応方針と取組み
・学校への働きかけの強化
⇒来館PRの実施
・平和学習の機会の提供
⇒平和研修の誘致。学校向けアンケートによるニーズの把握
- 目標 (R6)
府内小中学校来館率:31%
学校関係へのPR:30回
平和学習到達度:85%

② ピースおおさかの利用促進

- 対応方針と取組み
・イベントの魅力向上
⇒企画事業の充実
・外国人観光客へ情報発信
⇒多言語対応、Wi-Fi稼働
・会議室等の活用
・一般アンケート結果を踏まえた対応への取組み
- 目標 (R6)
入館者数:72,000人
外国人入館者数:6,200人

③ 館外の利用促進

- 対応方針と取組み
・学校関係に向けた貸出資料のPR
・貸出資料の充実
・出かける展示については、12回を毎年目標に実施
- 目標 (R6)
貸出資料利用件数:390件
出かける展示:12回

④ 自主財源の確保 運営コストの抑制

- 対応方針
・寄附金の積極的なPRの継続、魅力的なミュージアムグッズの作成・充実
・運営コスト抑制の継続
- 目標 (R6)
平和寄附金収入:1,155千円
入館者1人あたりの事業費:1250円

⑤ 平和ミュージアム、 資料館機能の強化

- 博物館機能の強化
・インターネット博物館を視野に入れ、調査・研究の専門性の高度化
- 他団体との連携
・「日本平和博物館会議」のメンバーとしての活動や、国内外の関係他機関との連携の強化

⑥ 施設の安全性・ 快適性の確保

- 工事の実施
・平成29年度より長期修繕計画に基づき、防犯設備、照明設備空調、トイレ、配管等の工事を実施
・来館者の安全性・快適性の確保に努める

計画の進捗管理

計画の進捗管理については、毎年度、理事会及び評議員会に本計画に基づく取組状況を報告し、計画実施の到達度を評価する。